

平成31年度、令和元年度 経営方針について

副校長 細井宏一

平成31年から令和元年へ。5月1日から、令和元年を使うこととなります。ついこの間までは、「平成最後の〇〇」と話をすることが多くありましたが、5月からは「令和最初の〇〇」と話すことが多くなっていくのかもしれませんが、新しい時代が、希望に溢れる明るい未来になってほしいと切に願います。一方、昭和生まれの私としては、昭和の時代がとても古い時代になってしまったような感覚もあり、年を感じてしまうのかもしれませんが。

時代が切り替わるこのときに、東京学芸大学附属大泉小学校の副校長として勤務することができますことを、たいへん光栄に感じております。

本年度の学校経営では、これまで本校が築き上げてきた、体験的な学びを通じた、教育課程を維持しつつ、教育活動に関わることとしては次の3つを重点として取り組んで参ります。

- ・「きれいな言葉」「人の気持ちを考える心」
- ・研究開発学校指定4年間の3年目の研究を充実させること
- ・国際学級50周年を契機に、世界に目を広げること

最初の「きれいな言葉」「人の気持ちを考える心」は、本校は教育目標の3番目「たくましく、清い心の子」から設定しました。昨年度までは、2番目の「支え合い共に生きる子」に重点をおき、「自己肯定感を育むこと」を大切にしてきましたが、本年度は、3つめの目標にスポットを当ててみようということです。この中の「清い心」がポイントとなりますが、少しイメージしにくいところがあるかもしれません。そこで、杉森校長より、「児童にとって行動しやすい目標を示していこう」「『きれいな言葉』がいいのではないか」ということになり、設定しました。「きれいな言葉」を、学校生活の中で意識することに取り組んでまいります。そして、自分はもちろん大切にすることが、相手のことも大切にする。「人の気持ちを考える心」を育てて参りたいと考えます。

二つ目は、研究の充実です。文部科学省の研究開発学校指定を受けて3年目となります。本年度は探究科を本格的に実施していく年度となります。開発学校は、現在の学習指導要領にないことを先導的に取り組んでいくことが求められており、新しい取組となります。詳しくは、保護者会等でご説明させていただきますが、ご理解をいただけますよう、お願い申し上げます。

そして、3つめが、「世界に目を広げよう」ということです。今年は、国際学級が設立されて50周年となります。東京オリンピック・パラリンピックも来年に控えています。子供達が世界に目を向ける活動を、折に触れて取り組んで参りたいと考えます。

保護者の皆様、本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。